

エコアクション21

環境経営レポート No. 14



発行日：2025年4月24日

活動期間：2024年1月1日～2024年12月31日



株式会社 丸福運送

【 目 次 】

目 次	1
1. 組織の概要	2
(1) 会社概要	2
(2) 登録対象範囲	2
(3) 実施体制	3
2. 環境経営方針	4
3. 環境経営目標	5～7
4. 環境経営計画	8～9
5. 環境経営計画に基づき実施した取組内容	10～12
6. 環境経営目標の実績と判定	13～20
7. 環境経営計画の取組に対する評価と今後の取組内容	21～22
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	23
9. 代表者による全体の評価と見直し・指示結果	24

1. 組織の概要

(1) 会社概要

事業者名 株式会社 丸福運送
代表者名 瀬尾 茂数
所在地 〒814-0171 福岡県福岡市早良区野芥4-45-21
法人設立年月日 昭和41年11月5日
資本金 1000万円
主要業務内容 一般貨物運送、引越(一般家庭、事業所)、精密機械搬入搬出、倉庫業、
物流資材販売、PCカスタマイズ、産業廃棄物収集運搬
事業規模

項目	単位	2021年	2022年	2023年	2024年
売上高	百万円	752	669	648	664
従業員数	人	92	87	83	79
床面積	m ²	6,306	6,306	6,306	6,306
車両数	台	85	77	72	66

(2) 登録対象範囲

■組織 全組織

- ・本社 : 福岡県福岡市早良区野芥4-45-21
- ・福岡支店(福岡営業所) : 福岡県福岡市早良区東入部3-1-8
- ・福岡支店(東倉庫) : 福岡県糟屋郡粕屋町仲原3-7-38
- ・南支店(南営業所) : 福岡県朝倉郡筑前町朝日1148-1

■活動 全活動

事業活動の内容 一般貨物運送事業、引越(一般家庭、事業所)、梱包、精密機械搬出
搬入、重量物据付運搬、物流資材販売、冷凍チルド輸送、PCカスタ
マイズ、倉庫業、保管・管理・流通加工、産業廃棄物収集運搬業

許可番号等

一般貨物自動車運送事業 福陸自第4937号

倉庫業 福運航第931号

産業廃棄物収集運搬業 許可年月日 有効年月日

福岡県 04000043607 令和5年10月7日 令和10年10月6日

廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず等、ゴムくず、木くず

佐賀県 04103043607 令和5年11月7日 令和10年11月6日

ゴムくず、廃プラスチック類、金属くず及びガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず

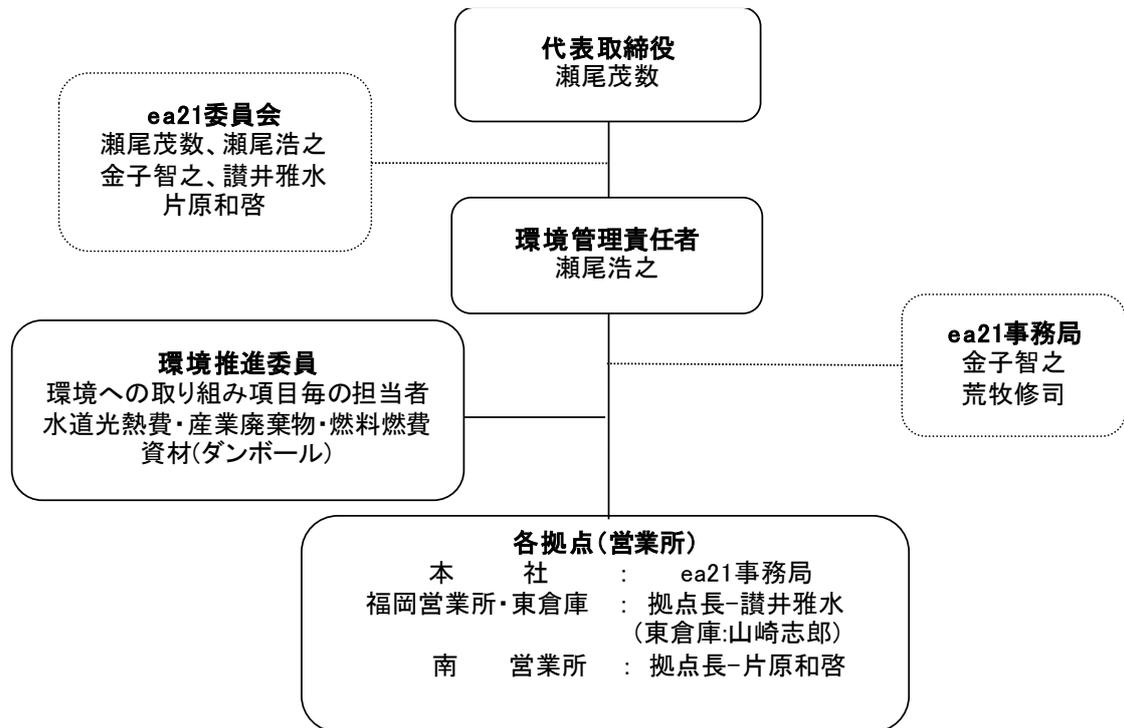
登録車両 バン(箱車) 4t車-6台, 3t車-6台, 2t車-4台

2024年度 産業廃棄物収集運搬実績 25.55t

環境管理責任者 物流部 部長 : 瀬尾 浩之
E A-21 事務局 総務部 課長 : 金子 智之
連絡先(事務局) TEL : 092-801-1155
FAX : 092-864-1255
E-mail : t-kaneko@marufukuunso.co.jp
URL : <http://www.buturyu.info/>

活動年度 1月~12月

(3) 実施体制



所属	役割・責任・権限
代表取締役	①代表者として環境経営全般に関して責任と権限を持つ
	②経営における課題とチャンスを確認にする
	③環境方針を策定し従業員全員に周知する
	④ea21全体の取り組み状況に関し、評価・見直しを実施する
	⑤環境管理責任者、環境委員などを任命する
	⑥環境整備に対する経営資源投入について意志決定する
環境管理責任者	①ea21ガイドラインの要求事項を満たす環境経営システムを構築実行し環境面の実績を向上させる
	②上記の結果を最高責任者へ報告する
	③ea21の書類の承認をする
	④環境委員会の委員長としてea21全般の舵取りを行い、実行を推進する
	⑤環境目標、環境活動計画を作成し、社員全員に周知する
環境推進委員	①環境経営システムの文書化をとりまとめる
	②環境への負荷の自己チェックを確認し取りまとめる
	③環境への取り組みの自己チェックを確認し取りまとめる
	④環境管理責任者を補佐し問題点の審議と解決策を立案する
拠点長	①自拠点の環境目標、環境活動計画を拠点全員に周知する
	②自拠点の環境目標、環境活動計画の実績把握を行う
	③自拠点の教育・訓練を実施する
	④社内外の環境情報の収集と伝達を行う
	⑤自拠点の緊急事態への準備及び対応の訓練を実施する
ea21委員会	①毎月の拠点長会議後に開催し、環境目標の達成状況及び環境活動計画の実行状況を審議する
事務局	①ea21文書及び記録類の作成・維持・管理を行う
	②各拠点内でのサポートを行う

2. 環境経営方針

環境経営理念

株式会社 丸福運送は、一般貨物自動車運送事業・倉庫業を通じ、循環型社会の形成に貢献します。環境問題に積極的に取り組み社会に貢献する活動を推進し、地域社会の発展に寄与するとともに、社会からいっそう信頼される企業を目指します。

環境経営方針

1. 事業活動全ての業務において、省エネルギー・省資源、廃棄物削減・リサイクル、節水、地域とのコミュニティ推進に努めます。
2. 重点的な取り組みとして、自動車からの排気ガスによる地球温暖化、大気汚染を防止する為、エコドライブの実践、低公害車の導入を推進します。
3. 引越業務や輸送業務、精密機器搬入出業務で使用する資材のリユース化を推進し、新たに購入する資材の削減に努めます。
4. 引越業務や輸送業務、PCカスタマイズ業務で排出される廃棄物（梱包材）の再利用とリサイクルに努めます。
5. 環境目標を設定して、定期的に見直すことにより、環境経営・環境保全活動の継続的な改善に努めます。
6. 関係する環境法規及びその他の要求事項を遵守し、環境負荷の軽減、環境汚染の防止に努めます。
7. 環境教育、啓発活動を通じて全従業員に本方針を周知するとともに、従業員の意識向上を図り、地域の環境保全に積極的に貢献します。
8. この方針を、広く社外に公開します。

制定：2011年1月1日

改訂：2025年1月1日

株式会社 丸 福 運 送

代表取締役

瀬尾 茂 教

3. 環境経営目標

当社の環境目標は、環境負荷の調査結果より以下のような目標を設定しました。

2023年度を目標基準年度とし、2024年度から3カ年の環境経営目標値を設定しました。審査人からのご提案により、今年度から新たに「売上金額当りの二酸化炭素排出量」を環境経営目標値に掲げました。昨年度のデータから「売上金額当りの二酸化炭素排出量」が、環境経営目標として設定可能か否かの判断をしました。燃料使用量は車両の走行距離に比例します。走行距離の内、実車距離分は売上金額に相当するので、燃料を効率よく使用しているか否かが判断できます。売上金額には、荷役作業員等、車両による運送に係わらないものも含まれますが、売上金額を細目別に取りするのは難しく、二酸化炭素排出量の中で燃料消費量のウエイトが高いので、売上金額は合計額を使用しました。また、電気使用量は、売上金額に比例する事務経費や倉庫保管経費とみることができます。ガソリン車と大型車軽油の燃費向上目標を全社のみとしました。当社が購入使用する物品やサービスを製造販売する取引先と共に環境への取組を把握・評価し、互いに環境経営に良い影響を与えるよう自社環境経営の推進と発展の目標値を継続します。また、グリーン購入品目の積極購入使用も含まれます。

【全社】

目標・活動項目(単位)	2023年度値 (基準値)	2024年度	2025年度	2026年度
1.二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO2)	1,139,593	1,128,196	1,116,800	1,105,404
燃料消費量の削減① ガソリン使用量の削減(L)	基準値 12,047	1%削減 11,927	2%削減 11,806	3%削減 11,686
燃料消費量の削減② 軽油使用量の削減(L)	基準値 411,986	1%削減 407,866	2%削減 403,746	3%削減 399,626
電気使用量の削減 (総電気使用) (kWh)	基準値 99,364	1%削減 98,370	2%削減 97,377	3%削減 96,383
灯油使用量の削減(L)	基準値 1,090	1%削減 1,079	2%削減 1,068	3%削減 1,057
2.水使用量の削減(m3)	基準値 229	1%削減 227	2%削減 224	3%削減 222
3.産業廃棄物排出量の削減(t)	基準値 14.900	1%削減 14.751	2%削減 14.602	3%削減 14.453
4.一般廃棄物排出量の削減(kg)	基準値 1,370	1%削減 1,356	2%削減 1,342	3%削減 1,328
5.売上当り二酸化炭素排出量 (kg-CO2/千円)	基準値 1.76	0.01削減 1.75	0.02削減 1.74	0.03削減 1.73
6.ガソリン・軽油の燃費向上	ガソリン 9.41km/ℓ 軽油 5.54km/ℓ	ガソリン 9.50km/ℓ 軽油 5.60km/ℓ	ガソリン 9.60km/ℓ 軽油 5.65km/ℓ	ガソリン 9.69km/ℓ 軽油 5.71km/ℓ

※購入電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力のCO2排出係数（2017年度調整後排出係数）0.463kg-CO2/kWhとしています。

※二酸化炭素排出量の削減値は都市ガスを除いたものです。

※総排水量と水使用量について

南支店（南営業所）の水道はすべて井戸水で、使用メーターが付いていないため、その量を把握できません。このため、総排水量と水使用量は、本社、福岡支店（福岡営業所，東倉庫）の値としています。また、福岡営業所は洗車場と倉庫内トイレが井戸水を使用していますが、井戸水使用メーターを付けていないためその使用量を把握できていません。

【本社・福岡支店】

目標・活動項目(単位)	2023年度値 (基準値)	2024年度	2025年度	2026年度
1.二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO2)	683,062	676,231	669,400	662,564
燃料消費量の削減① ガソリン使用量の削減(L)	基準値 11,802	1%削減 11,684	2%削減 11,566	3%削減 11,447
燃料消費量の削減② 軽油使用量の削減(L)	基準値 239,545	1%削減 237,150	2%削減 234,754	3%削減 232,358
電気使用量の削減 (総電気使用)(kWh)	基準値 75,466	1%削減 74,711	2%削減 73,957	3%削減 73,202
灯油使用量の削減(L)	基準値 1,090	1%削減 1,079	2%削減 1,068	3%削減 1,057
2.水使用量の削減(m3)	基準値 229	1%削減 227	2%削減 224	3%削減 222
3.産業廃棄物排出量の削減(t)	基準値 4.350	1%削減 4.307	2%削減 4.263	3%削減 4.220
4.一般廃棄物排出量の削減(kg)	基準値 866	1%削減 857	2%削減 848	3%削減 840
5.売上当り二酸化炭素排出量 (kg-CO2/千円)	基準値 1.47	0.01削減 1.46	0.02削減 1.45	0.03削減 1.44
6.ダンボール使用量の削減(t)	基準値 11.99	1%削減 11.870	2%削減 11.750	3%削減 11.630
7.低公害車の100%導入の維持【運送用車両】	基準値 100%	100%維持 100%	100%維持 100%	100%維持 100%

目標・活動項目(単位)	2023年度値 (基準値)	2024年度	2025年度	2026年度
7-2.軽油の燃費向上	基準値 6.46km/ℓ	1%向上 6.52km/ℓ	2%向上 6.59km/ℓ	3%向上 6.65km/ℓ
中小型車	基準値 6.53km/ℓ	1%向上 6.60km/ℓ	2%向上 6.66km/ℓ	3%向上 6.73km/ℓ
コンビニ車	基準値 6.18km/ℓ	1%向上 6.24km/ℓ	2%向上 6.30km/ℓ	3%向上 6.37km/ℓ
【全社】 軽油の燃費向上・大型車	基準値 4.02km/ℓ	1%向上 4.06km/ℓ	2%向上 4.10km/ℓ	3%向上 4.35km/ℓ

※購入電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力のCO2排出係数（2017年度調整後排出係数）

0.463kg-CO2/kWhとしています。

※二酸化炭素排出量の削減値は都市ガスを除いたものです。

【南支店】

目標・活動項目(単位)	2023年度値 (基準値)	2024年度	2025年度	2026年度
1.二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO2)	456,534	451,968	447,403	442,838
燃料消費量の削減① ガソリン使用量の削減(L)	基準値 245	1%削減 243	2%削減 240	3%削減 238
燃料消費量の削減② 軽油使用量の削減(L)	基準値 172,442	1%削減 170,718	2%削減 168,993	3%削減 167,269
電気使用量の削減 (総電気使用) (kWh)	基準値 23,898	1%削減 23,659	2%削減 23,420	3%削減 23,181
灯油使用量の削減(L)	基準値 0	1%削減 0	2%削減 0	3%削減 0
2.水使用量の削減(m3)	基準値 0	1%削減 0	2%削減 0	3%削減 0
3.産業廃棄物排出量の削減(t)	基準値 10.550	1%削減 10.445	2%削減 10.339	3%削減 10.234
4.一般廃棄物排出量の削減(kg)	基準値 504	1%削減 499	2%削減 494	3%削減 489
5.売上当り二酸化炭素排出量 (kg-CO2/千円)	基準値 2.49	0.01削減 2.48	0.02削減 2.47	0.03削減 2.46
6.エコ・地域活動項目の継続と発展	基準値 項目の継続	項目の継続 継続と発展	項目の継続 継続と発展	項目の継続 継続と発展

目標・活動項目(単位)	2023年度値 (基準値)	2024年度	2025年度	2026年度
6-2.軽油の燃費向上	基準値 4.30km/ℓ	1%向上 4.34km/ℓ	2%向上 4.39km/ℓ	3%向上 4.43km/ℓ
中小型車	基準値 7.16km/ℓ	1%向上 7.23km/ℓ	2%向上 7.30km/ℓ	3%向上 7.37km/ℓ
冷凍冷蔵車	基準値 3.39km/ℓ	1%向上 3.42km/ℓ	2%向上 3.46km/ℓ	3%向上 3.49km/ℓ

※購入電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力のCO2排出係数（2017年度調整後排出係数）

0.463kg-CO2/kWhとしています。

※二酸化炭素排出量の削減値は都市ガスを除いたものです。

4. 環境経営計画

【全社共通】

No.	環境経営目標	実施事項	実施部門 責任者
1	電気使用量の削減 (CO2の削減) 《目標》 総電気使用量・・・ 2023年度比 1%削減	①エアコン設定温度の順守 ②休憩時間、不使用時の消灯 ③コピー機の使用頻度を減らす	全拠点 拠点長 本社は事務局
2	燃料使用量の削減 (CO2の削減) 《目標》 ①車両燃料・・・2023年度比1% 削減 (ガソリン・軽油の削減) ガソリン・軽油の燃費向上 《目標》軽油:5.60km/L ガソリン:9.50km/L	①運転指導(デジタコ等)による走行距離あたり 燃料消費効率の向上(エコドライブ) ②車両整備による走行距離あたり燃料消費効率 の向上(エコドライブ) ③タイヤの空気圧を測る ④タイヤのローテーションを行う	全拠点 拠点長 本社を除く
3	灯油使用量の削減 《目標》 2023年度比 1%削減	①冬期時室内温度を守る ②事務所の扉や窓が開けっ放しにしない ③ストーブの利用者が見あたらない時は消火する	全拠点 拠点長 本社は事務局
4	産業廃棄物排出量の削減 《目標》産業廃棄物量削 減・・・2023年度比1%削減	①輸送業務、倉庫保管業務において再利用可能 な資材の利用 ②お客様へ梱包資材削減とリユース、リサイクルのご 協力のお願い	全拠点 拠点長 本社は事務局
5	一般廃棄物排出量の削減 《目標》一般廃棄物量削 減・・・2023年度比1%削減	①廃棄物の分別の徹底 ②リユース、リサイクル推進活動の展開 ③排出量の秤量管理	全拠点 拠点長 本社は事務局
6	水使用量の削減 《目標》 2023年度比1%削減	①洗車ルールの周知徹底による節水意識の浸 透 ②ストッパー付き洗車ノズル使用の継続 ③効率の良い洗車手順の調査・指導	全拠点 拠点長 本社は事務局
7	売上当り二酸化炭素排出量 《目標》 2023年度より0.01削減	①「二酸化炭素排出量の削減」の実施事項 ②配車及び営業の受注集中による輸送効率・実 車率の向上	全拠点 拠点長 本社は事務局

【各拠点】

No.	環境経営目標	実施事項	実施部門 責任者
1	低公害車100%導入の維持 《目標》 100%導入維持	①低公害車の100%導入【運送用車輛】	本社 本社購入担当者
2	ダンボール使用量の削減 《目標》 2023年度より1%削減	①引越業務におけるダンボール資源の再利用化 ②布団袋、ベトナムマットカバー、ハンガーボックス、クレープ紙は数量を把握	福岡営業所 福岡拠点長
3	エコ・地域活動項目の継続と発展 《目標》 エコ・地域活動を継続・発展	①グリーンカーテン・営業所周辺の清掃活動を継続して行う。 ②エコロジー活動や地域に貢献できる活動を模索し活動を発展させる	南営業所 南拠点長
4	【本社・福岡支店】 ガソリン・軽油の燃費向上 《目標》軽油:6.52km/L ガソリン:---km/L 《目標》車種別 軽油[km/L] ガソリン[km/L] 大型車:--- 営業車:--- 小中型:6.60 自家用:--- コンビニ :6.24	全社共通の燃料使用量の削減に同じ	福岡営業所 福岡拠点長
5	【南支店】 ガソリン・軽油の燃費向上 《目標》軽油:4.34km/L ガソリン:---km/L 《目標》車種別 軽油[km/L] ガソリン[km/L] 大型車:--- 営業車:--- 小中型:7.23 自家用:--- 冷凍冷蔵 :3.42	全社共通の燃料使用量の削減に同じ	南営業所 南拠点長

5. 環境経営計画に基づき実施した取組内容

当社として、本社・福岡支店及び南支店の事業活動における環境への負荷を低減するために、以下の活動を実施しました。なお、その達成状況や活動の実施状況を毎月のE A-21委員会にてフォローしております。

(1) 電気使用量の削減

当社のCO2排出量としては基準年度において2番目に多い電気(5.0%)使用量を削減することとしました。

- ① 休憩時間の消灯や未使用時の電源OFFの実施と節電シールの表示
- ② 温度計の設置
- ③ 空調使用時の温度管理の徹底(夏季:26℃~28℃、冬期:20℃~22℃)
- ④ 節電管理表への記入による確認
- ⑤ コピー機の使用頻度を減らす

(2) 燃料使用量の削減・ガソリン軽油の燃費向上

当社のCO2排出量としては基準年度において1番目に多い軽油(93.3%)3番目に多いガソリン(2.5%)使用量を削減することが当社として最大の効果があると考え下記のような対策を実施しております。

- ① 無駄なアイドリングのストップ(荷物積込み及び荷降ろし時にエンジンをストップ)
- ② 急加速、急減速、不要な高回転、速度超過を行わない
- ③ 運行管理者より運転者への指導(デジタコ等)による走行距離あたりの燃料消費効率の向上
- ④ 日常点検の実施(整備管理者による指導)
- ⑤ 整備管理者は定期的に車輛のタイヤの状態を確認する
- ⑥ 整備管理者はタイヤのローテーションをタイヤや運行の状況に応じて実施する
- ⑦ 車両整備による走行距離あたりの燃料消費効率の向上

(3) 灯油使用量の削減

当社のCO2排出量比率は低いですが、使用量が多いため使用量を削減することとしました。

- ① 冬期時室内温度を守る
- ② 事務所の扉や窓が開けっ放しにしない
- ③ ストープの利用者が見あたらない時は消火する

(4) 産業廃棄物排出量の削減

廃棄物排出量の中で、引越や運送の梱包資材として使うダンボールの排出量を削減するための対策を実施しています。また、資材のリユース、リサイクルに努めます。

- ① 営業担当者はお客様にプラスチックダンボールの利用を勧める
- ② お客様のプラスチックダンボール利用向上を図る施策を拠点内で検討、実施する
- ③ 自社内で使用するダンボールは、プラスチックダンボールや買い物かごとする
- ④ お客様へ梱包資材の削減とリユース、リサイクルのご協力をお願いする

(5) 一般廃棄物排出量の削減

一般廃棄物はリサイクル・リユースできるものも多く、これらを少しでも分別して再資源化できるような対策を実施しています。

- ① 一般廃棄物は、分別札に応じた分別がされている
- ② ミスコピーは再利用箱に入れる
- ③ 電子メール・掲示板・回覧・スキャナ・ファイルサーバーを利用し、印刷を減らす。

- また、会議資料等の配布物を少くする
- ④ 排出量は、市販されている簡易な秤で計量する

(6) 総排水量の削減

当社の水資源の使用は主に車輛の洗車です。水を出しっぱなしにしないように、水を使う時間を短くするような対策を実施しています。

- ① 水を出っぱなしにせず、こまめに水を止め使用する
- ② 洗車記録書に洗車実施者と洗車時間を記入する（整備管理者への報告）
- ③ ストッパー付き洗車ノズルの使用の継続
- ④ 効率の良い洗車手順の調査・指導

(7) 売上金額当り二酸化炭素排出量の削減

原単位（売上金額）当りの当社のCO₂排出量を削減することにしました。

燃料消費量は運送売上の増減、車輛所属の変更や車両台数の増減に影響されます。環境活動目標値に対し、受注や売上高、作業量などの増減やその他外的要因による影響によって増減する実績値の評価をとらえるための値です。

- ① 電気使用量及び灯油使用量削減の取組内容を実施
- ② 燃料使用量及びガソリン軽油の燃費向上の取組内容を実施
- ③ 配車担当の輸送効率・実車率の向上、営業担当の受注分散による輸送の平準化

(8) ダンボール使用量の削減

当社は引越業務を営んでいます。引越業務で使用するダンボールをリユースし、新しいダンボールの使用量を削減する対策を実施しています。

- ① 営業担当者はお客様に再利用ダンボールの利用を勧める
- ② お客様の利用向上を図る施策を拠点内で検討、実施する
- ③ 使用済みダンボールの回収率を上げる工夫を拠点内で検討、実施する
- ④ 布団袋、ベッドマットカバー、ハンガーボックス、クレープ紙は数量を把握する

(9) 低公害車100%導入の維持

当社は一般貨物自動車運送事業を営んでおり、運送業務で使用する車輛を低公害車へ替えていくことは必須だと考えます。

- ① 購入担当者は、低公害車の100%導入を維持する

(10) エコロジー・地域活動項目の継続と発展

当社は、身近なエコロジー活動や地域に貢献した参加できる活動を推進します。この活動から次への発展を期待します。

- ① これまでのエコ活動、地域に貢献・参加できる活動を継続する。
- ② エコ活動、地域に貢献・参加できる活動を調査し、手順や実施方法を検討し、実施する。
- ③ 当社本社近くの小学生を対象に、「トラックで運ぶ」をテーマとした物流を身近に感じてもらおう催しを開催した。

(11) その他

本社・福岡支店及び南支店は前年度から引き続き、計画に基づいて活動を実施しております。

- ① 教育訓練の実施
 - 従業員への教育
 - 朝礼や安全会議でのエコアクション21への取り組みについての説明、社長及び各拠点長による指導・掲示物・指標などの掲示による意識向上を実施してきました。
- ② 毎年取組み状況チェック

- ③ E A-21 システムの確実な実施
- ④ 従業員用小冊子の改変（バージョンアップ）
- ⑤ 購入担当者や使用者へ周知指導し、個人で購入・使用する物もなるべくグリーン購入品やエコマーク付きを選択するよう従業員へお願いする
- ⑥ その他
 - 当社内出入り業者に対して、アイドリングストップのお願い要請と事務所入口に「アイドリングストップ」の表示を実施しています。
 - この環境経営レポートを、本社、福岡営業所及び南営業所に常備し、外部に公開しています。

6. 環境経営目標の実績と判定

環境経営目標に対する達成状況は以下の通りです。

【全社】

※判定は、○..達成 ×..未達

環境経営目標	2023年度 (基準値)	2024年度 目標値	2024年度		
			目標値	年合計	
1. 二酸化炭素排出量	二酸化炭素排出量 1,139,593 kg-CO2	-	目標値	1,128,196	
			実績値	1,131,783	
			判定	×	
	燃料消費量の削減	①ガソリンの削減 12,047 L 実施責任者：本社除く拠点長	基準年度比 1%削減	目標値	11,927.00
				実績値	12,613.84
				判定	×
		②軽油の削減 411,986 L 実施責任者：本社除く拠点長		目標値	407,866.00
				実績値	405,918.93
				判定	○
	事務所及び作業場の電力・灯油使用量の削減	③電気使用量 99,364 kWh 実施責任者：各拠点長	基準年度比 1%削減	目標値	98,370
				実績値	114,432
				判定	×
④灯油の削減 1,090 L 実施責任者：各拠点長		目標値		1,079.00	
		実績値		910.00	
		判定		○	
2. 水使用量の削減	排水量 229 m3 実施責任者：各拠点長	基準年度比 1%削減	目標値	227	
			実績値	253	
			判定	×	
3. 産業廃棄物総排出量の削減	総廃棄物量 14.9 トン 実施責任者：各拠点長	基準年度比 1%削減	目標値	14.751	
			実績値	45.680	
			判定	×	
4. 一般廃棄物総排出量の削減	総廃棄物量 1,370 kg 実施責任者：各拠点長	基準年度比 1%削減	目標値	1,356	
			実績値	1,397	
			判定	×	
5. ガソリン・軽油の燃費向上	2023年度 9.41km/L 基準データ 5.54km/L 実施責任者：本社除く拠点長	9.50km/L 5.60km/L 基準より1%向上	ガソリン	9.57	
			軽油	5.30	
			判定	○/×	
6. 売上当り二酸化炭素排出量	売上千円当り二酸化炭素排出量 1.76 kg-CO2/千円 実施責任者：各拠点長	基準年度より 0.01kg-CO2/ 千円削減	目標値	1.75	
			実績値	1.70	
			判定	○	

○全項目（都市ガスを含む）の二酸化炭素排出量 1,131,917kg-CO2

※購入電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力のCO2排出係数（2017年度調整後排出係数）0.463kg-CO2/kWhとしています。

※総排水量と水使用量について、南支店（南営業所）の水道はすべて井戸水で、使用メーターが付いていないため、その量を把握できません。このため、総排水量と水使用量は、本社、福岡支店（福岡営業所、東倉庫）の値としています。また、福岡営業所は洗車場と倉庫内トイレが井戸水を使用していますが、井戸水使用メーターを付けていないためその使用量を把握できていません。

【本社・福岡支店】

※判定は、○..達成 ×..未達

環境経営目標	2023年度 (基準値)	2024年度 目標値	2024年度		
			目標値	年合計	
1. 二酸化炭素排出量	二酸化炭素排出量 683,062 kg-CO2	-	目標値	676,231	
			実績値	649,064	
			判定	○	
	燃料消費量の削減	①ガソリンの削減 11,802 L 実施責任者：本社除く拠点長	基準年度比 1%削減	目標値	11,684.00
				実績値	12,324.32
		判定		×	
		②軽油の削減 239,545 L 実施責任者：本社除く拠点長		目標値	237,150.00
	事務所及び作業場の電力・灯油使用量の削減	③電気使用量 75,466 kWh 実施責任者：各拠点長	基準年度比 1%削減	実績値	223,337.94
				判定	○
		④灯油の削減 1,090 L 実施責任者：各拠点長		目標値	74,711
実績値				90,699	
判定				×	
目標値				1,079.00	
2. 水使用量の削減	排水量 229 m ³ 実施責任者：各拠点長	基準年度比 1%削減	実績値	910.00	
			判定	○	
			目標値	227	
3. 産業廃棄物総排出量の削減	総廃棄物量 4.35 トン 実施責任者：各拠点長	基準年度比 1%削減	実績値	253	
			判定	×	
			目標値	4.307	
4. 一般廃棄物総排出量の削減	総廃棄物量 866 kg 実施責任者：各拠点長	基準年度比 1%削減	実績値	43.540	
			判定	×	
			目標値	857	
5. 売上当り二酸化炭素排出量	売上千円当り二酸化炭素排出量 1.47 kg-CO2/千円 実施責任者：各拠点長	基準年度より 0.01kg-CO2/ 千円削減	実績値	1.34	
			判定	○	
			目標値	1.46	
6. ガソリン・軽油の燃費向上	2023年度 基準データ 実施責任者：本社除く拠点長	-.-km/L 6.46km/L 基準より1%向上	ガソリン		
			軽油	6.32	
			判定	×	
7. 低公害車の100%導入の維持	低公害車導入率 (%) 実施責任者：本社購入担当者	100%維持	目標値	100%維持	
			実績値	100%維持	
			判定	○	
8. ダンボール使用量の削減	総使用量 11.99 トン 実施責任者：福岡拠点長	基準年度比 1%削減	目標値	11.870	
			実績値	11.542	
			判定	○	

○全項目（都市ガスを含む）の二酸化炭素排出量 649,260kg-CO2

※購入電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力のCO2排出係数（2017年度調整後排出係数）0.463kg-CO2/kWhとしています。

【南支店】

※判定は、○..達成 ×..未達

環境経営目標	2023年度 (基準値)	2024年度 目標値	2024年度		
			目標値	年合計	
1. 二酸化炭素排出量	二酸化炭素排出量 456,534 kg-CO2	-	目標値	451,968	
			実績値	482,656	
			判定	×	
	燃料消費量の削減	①ガソリンの削減 245 L 実施責任者：本社除く拠点長	基準年度比 1%削減	目標値	243.00
				実績値	262.52
				判定	×
		②軽油の削減 172,442 L 実施責任者：本社除く拠点長		目標値	170,718.00
				実績値	182,580.99
				判定	×
	事務所及び作業場の電力・灯油使用量の削減	③電気使用量 23,898 kWh 実施責任者：各拠点長	基準年度比 1%削減	目標値	23,659
実績値				23,733	
判定		×			
④灯油の削減 0 L 実施責任者：各拠点長		目標値		0.00	
	実績値	0.00			
判定	○				
2. 水使用量の削減	排水量 0 m ³ 実施責任者：各拠点長	基準年度比 1%削減	目標値	0	
			実績値	0	
			判定		
3. 産業廃棄物総排出量の削減	総廃棄物量 10.55 トン 実施責任者：各拠点長	基準年度比 1%削減	目標値	10.445	
			実績値	2.140	
			判定	○	
4. 一般廃棄物総排出量の削減	総廃棄物量 504 kg 実施責任者：各拠点長	基準年度比 1%削減	目標値	499	
			実績値	496	
			判定	○	
5. 売上当り二酸化炭素排出量の削減	売上千円当り二酸化炭素排出量 2.49 kg-CO2/千円 実施責任者：各拠点長	基準年度より 0.01kg-CO2/ 千円削減	目標値	2.48	
			実績値	2.69	
			判定	×	
6. ガソリン・軽油の燃費向上	2023年度 ---km/L	---km/L	ガソリン		
	基準データ 4.30km/L	4.34km/L	軽油	4.12	
	実施責任者：本社除く拠点長	基準より1%向上	判定	×	
7. エコ・地域活動項目の継続と発展	エコ・地域活動項目の継続と発展	活動項目の継続	目標値	継続と発展	
	項目の継続		実績値	継続と発展	
	実施責任者：南営業所拠点長		判定	○	

※購入電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力のCO2排出係数（2017年度調整後排出係数）0.463kg-CO2/kWhとしています。

【車種ごとの燃費】

※判定は、○..達成 ×..未達

環境経営目標	2023年度 (基準値)	2024年度 目標値	2024年度	
			年合計	
【全社】 ガソリンの燃費向上	ガソリン・営業/自家用車 9.41 km/L 実施責任者：本社除く拠点長	基準年度比 1%向上	目標値	9.50
			実績値	9.57
			判定	○
【全社】 軽油・大型車の 燃費向上	軽油・大型車 4.02 km/L 実施責任者：本社除く拠点長	基準年度比 1%向上	目標値	4.06
			実績値	3.75
			判定	×
【本社・福岡支店】 軽油の燃費向上	軽油・中小型車 6.53 km/L 実施責任者：本社除く拠点長	基準年度比 1%向上	目標値	6.60
			実績値	6.42
			判定	×
	軽油・コンビニ車 6.18 km/L 実施責任者：本社除く拠点長	基準年度比 1%向上	目標値	6.24
			実績値	5.98
			判定	×
【南支店】 軽油の燃費向上	軽油・中小型車 7.16 km/L 実施責任者：本社除く拠点長	基準年度比 1%向上	目標値	7.23
			実績値	7.23
			判定	○
	軽油・冷凍冷蔵車 3.39 km/L 実施責任者：本社除く拠点長	基準年度比 1%向上	目標値	3.42
			実績値	3.44
			判定	○

(1) 燃料消費量の削減【全社、本社・福岡支店、南支店】

(判定 ガソリン/軽油【全社：×/○，本社・福岡支店：×/○，南支店：×/×】)

目標値について、ガソリンは、全社、本社・福岡支店、南支店全てにおいて目標を達成できませんでした。軽油は、南支店を除き目標を達成しました。全社及び本社・福岡支店の軽油以外は目標未達となった原因が、燃費悪化によるものか走行距離の増加によるものか、他に原因があるのか追求ができていません。

一昨年度（2022年度）時点で、車両の減少により燃料消費量の目標値が現状と合わなくなっていました。また、燃費向上目標の車種構成が現状と合わなくなってきたため、燃料消費量及び燃費向上目標の車種構成を変更し、昨年度（2023年度）を基準値とする目標値を設定しました。さらに、環境活動目標値に対し、受注や売上高、作業量などの増減やその他外的要因による影響によって増減する実績値の評価をとらえるため、原単位（売上金額）当りの二酸化炭素排出量も目標値に設定しました。売上金額に対するコストという観点で燃料消費量を捉えることができるようになりました。

(2) ガソリン・軽油の燃費向上【全社、本社・福岡支店、南支店】

(判定 ガソリン/軽油【全社：○/×，本社・福岡支店：- /×，南支店：- /×】)

拠点別の目標値について、全社のガソリンが目標を達成しましたが、全社、本社・福岡支店及び南支店の軽油は目標を達成できませんでした。

車両の減少により、燃費向上目標の車両構成を変更しました。ガソリンは、拠点ごとでは無く全社での取りまとめ（営業/自家用も無くす）とし、常温の大型車は1台のため、これも全社での取りまとめにしました。拠点ごとの軽油は、中小型車、コンビニ車及び冷凍冷蔵車としました。

車種毎の燃費目標値について、本社・福岡支店の中小型車及びコンビニ車は、目標を達成できませんでした。南支店の中小型車及び冷凍冷蔵車は、目標を達成しました。

			昨年度	今年度	昨年度より
全社	ガソリン		9.41 km/L	9.57 km/L	↑
	軽油	大型車	4.02 km/L	3.75 km/L	↓
本社・福岡支店	軽油	中小型車	6.53 km/L	6.42 km/L	↓
		コンビニ車	6.18 km/L	5.98 km/L	↓
南支店	軽油	中小型車	7.16 km/L	7.23 km/L	↑
		冷凍冷蔵車	3.39 km/L	3.44 km/L	↑

昨年度より燃費が向上しているのは、南支店の中小型車及び冷凍冷蔵車です。本社・福岡支店の中小型車及びコンビニ車は昨年度より燃費が悪化しています。悪化の数値が大きく、適切な運転の指導だけが原因ではなく他に原因があるのではないかと考えます。特にコンビニ車の燃費の悪化が大きいです。車両の架装や走行コースの変化を調査します。南支店の軽油中小型車及び冷凍冷蔵車は、昨年度より燃費が向上しているのは良い傾向です。

目標未達の原因を調査し、必要であれば燃費目標値を再考します。

引き続きデジタコによる適切な運転指導や燃費向上キャンペーンの実施を継続してまいります。車種ごとの的確な指導方法を研究・実施し、ドライバーへの意識付けを行い、省エネ運転の指導を継続するよう努めます。

(3) 事務所及び作業場の電気使用量の削減【本社、本社・福岡支店、南支店】

(判定【本社：×，本社・福岡支店：×，南支店：×】)

本社、本社・福岡支店及び南支店において、目標を達成できませんでした。対目標値 全社：116%、本社・福岡支店：121%、南支店：100%となりました。南支店は、事務所照明のLED化を終えての結果でした。

福岡支店の東倉庫をご利用のお客様に、節電のご理解とご協力をお願いしております。また、福岡支店においては、倉庫内の電灯の切り忘れがないよう、夏期・冬期のエアコン使用時の温度管理の指導を続けてまいります。今年度の南支店の夏場のグリーンカーテンは、一定の効果があつたように思えます。来年度もグリーンカーテンの育成を行います。

全社、本社・福岡支店及び南支店において、現状の節電方法では目標値達成が難しくなってきました。これまで削減した目標値（基準年度の値）に固定し、これを超えないよう努力するようにします。

(4) 事務所及び作業場の灯油使用量の削減【本社、本社・福岡支店、南支店】

(判定【本社：○，本社・福岡支店：○，南支店：－】)

灯油は本社の石油ストーブでの利用のみとなっています。福岡支店は南支店と同様に事務所の空調はエアコンのみとなりました。今後も石油ストーブとエアコンの効率的な併用により灯油使用量の削減に努めます。

(5) 総排水量の削減【本社、本社・福岡支店、南支店】

(判定【本社：×，本社・福岡支店：×，南支店：－】)

全社、本社・福岡支店において、目標を達成できませんでした。対目標値 111.5%であり、総排水量の削減目標値が限界に達したとみています。電気使用量の削減と同様に、これまで削減した目標値（基準年度の値）に固定し、削減を進めるようにします。従業員皆さんに節水意識が定着したことは確信しています。南支店の雨水タンクの利用は、使用・運用ルールの周知徹底を行い早く利用出来るよう進めてまいります。

洗車時間の管理は本社・福岡支店において引き続き行っています。

本社・福岡支店の今年度の合計洗車時間／台数は下記の通りでした。

2024年度 本社・福岡支店の合計洗車時間 124時間8分／571台（13分／台）

洗車時間の報告は自己申告のため、漏れなく洗車時間の報告があるよう洗車時間報告の徹底を指導します。合計洗車時間の60%を水道使用したとし、1分当たりの水道使用量を乗じた値を洗車で使用する総排水量と推測することが確かかどうか判断し、利用出来るよう工夫します。南支店の洗車時間による総排水量の推測値を求められるよう考えます。

南支店の水道はすべて井戸水で使用メーターが付いていないため、その量を把握できません。このため、総排水量と水使用量は、本社、福岡支店（福岡営業所、東倉庫）の値としています。また、福岡営業所は洗車場と倉庫内トイレが井戸水を使用していますが、井戸水使用メーターを付けていないためその使用量を把握できていません。

(6) 産業廃棄物総排出量の削減【本社、本社・福岡支店、南支店】

(判定【本社：×，本社・福岡支店：×，南支店：○】)

全社及び本社・福岡支店は目標を達成できませんでした。南支店は目標を達成できました。

	本社・福岡支店	南支店	全社
2023年度排出量	4.350ト	10.550ト	14.900ト
2024年度排出量	43.540ト	2.140ト	45.680ト

本社・福岡支店及び南支店においては、引き続き荷主様へのご協力のお願い、リサイクル業者の引き取りや産廃業者が直接収集を行うなどの実施を強化し継続してまいりました。本社・福岡支店の今年度は、事務所移転及び自社倉庫内の整理に伴う廃棄が一時的に増加しました。

南支店は、梱包材が多く排出される取引先との取引がほぼ無くなり、産業廃棄物総排出量の削減となりました。倉庫保管の取引先の増加を見込んでいますが、産業廃棄物総排出量の増加が予想されます。一時的な増加により目標値を上回ることもあるので、これをどのように実績値へ反映するのか課題とします。

次年度以降も荷主様の産業廃棄物総排出量も削減出来るよう荷主様を交えて提案や工夫を考えて進めてまいります。お客様・荷主様のご協力をお願いし、産業廃棄物排出量を減少させるよう努力します。

(7) 一般廃棄物総排出量の削減【全社、本社・福岡支店、南支店】

(判定【全社：×，本社・福岡支店：×，南支店：○】)

南支店において目標を達成しました。全社及び本社・福岡支店は目標を達成できませんでした。

	本社・福岡支店	南支店	全社
2023年度排出量	866kg	503kg	1,370kg
2024年度排出量	901kg	496kg	1,397kg

各拠点の事務作業において、ファイルサーバーやスキャナーの利用が日常化し、紙に印刷する量がかなり少なくなりました。ゴミを分別し再利用する意識も定着したように感じます。今後も廃棄物の分別やリサイクル・リユースの徹底を従業員の皆様に周知してまいります。

(8) 売上金額当り二酸化炭素排出量の削減【全社、本社・福岡支店、南支店】

(判定【全社：○，本社・福岡支店：○，南支店：×】)

今年度から新たに「売上金額当りの二酸化炭素排出量」を環境経営目標値に掲げました。燃料使用量は車両の走行距離に比例します。走行距離の内、実車距離分は売上金額に相当するので、燃料を効率よく使用しているか否かが判断できます。売上金額には、荷役作業員等、車両による運送に係わらないものも含まれますが、環境活動目標値に対し、受注や売上高、作業量などの増減やその他外的要因による影響によって増減する実績値の評価をとらえるため、原単位（売上金額）当りの二酸化炭素排出量も目標値に設定しました。

全社、本社・福岡支店において目標を達成しました。南支店は目標を達成できませんでした。

	本社・福岡支店	南支店	全社
2024年度排出量	1.34kg-CO2/千円	2.69kg-CO2/千円	1.70kg-CO2/千円

本社・福岡支店は引越など作業を伴う業務が多く、南支店は運送のみの業務が多いのでその傾向が数値に表れています。今年度、南支店は取引先の減少と統合があったため、その影響がどの程度あるのか不明です。来年度も今年度と同じ目標値で評価し、結果から原因を追求するようにします。

(9) ダンボール使用量の削減【福岡支店】(判定【福岡支店：○】)

今年度は目標を達成できました。引越の繁忙期（3月・4月）に集中しました。人員不足による受注の減少となりました。

	プラスチックダンボール	中古ダンボール
2023年度	0枚	2,625枚
2024年度	0枚	1,015枚

プラスチックダンボールが利用されていません。法人様のご利用のアピールを進め、個人様のご利用に中古ダンボールのアピールを進めるよう引き続き行ってまいります。また、引き続きダンボール以外の資材（テープ類や梱包材）の削減目標ができるよう情報を収集し、検討します。

(10) 低公害車の100%導入の維持【本社】(判定【本社：○】)

今年度は、11月にコンビニ車を2台、12月にコンビニ車1台購入しました。いずれも中古車なので低公害車の購入には反映しません。

(11) エコ・地域活動項目の継続と発展【南支店】(判定【南支店：○】)

事務所横のグリーンカーテンは今年度で12年目となりました。今年度は順調に育ちました。夏場の事務所内の温度上昇抑止効果もあったように思えます。台風の影響によりグリーンカーテンは損壊しました。植え付けや肥料などを工夫して次年度も挑戦します。

以前に地域活動項目として、当社本社近くの小学生を対象とし、「トラックで運ぶ」をテーマとした物流を身近に感じてもらう催しを開催しましたが、今年度も該当する会合や依頼を見つけることはできませんでした。情報を収集し開催できるよう努力します。次年度以降も地域に密着した活動項目を探索し、発展させてまいります。

グリーンカーテンの成長記録

6月26日



7月6日



7月30日



8月11日



7. 環境経営計画の取組に対する評価と今後の取組内容

■ 環境経営計画の取組に対する評価

E A-21 環境改善取組みは2011年1月から実施し、本レポートも14回目となりました。昨年度を基準年度とし、今年度から3カ年の目標値を設定しました。

車両の減少などで燃費向上目標の車種構成が現状と合わなくなってきました。目標値と実績値が比較出来ない車種もでてきたため、燃費向上目標の車種構成を変更し、新たな基準値を設定しました。南支店のガソリン車が1台となり、事業用も全社で1台となったため、ガソリン車を全社でまとめて管理としました。また、常温輸送の大型車も全社で1台のためこれも全社で管理としました。本社・福岡支店の管理は、軽油の中小型車、コンビニ車とし、南支店の管理は、軽油の中小型車、冷凍冷蔵車としました。一般貨物自動車運送事業者にとって、燃費向上目標は、コスト削減・利益向上、温室効果ガス排出量の削減への効果が大きく反映します。燃費は、車両の種類によって大きく異なります。車両種類の構成は都度見直す必要があります。

燃料消費量は運送売上の増減、車輛所属の変更や車両台数の増減及び配車や実車率などに影響されます。また、出量や倉庫内の電気使用量も、倉庫保管の売上高やお取引先様のご協力に影響されます。環境活動目標値に対し、受注や売上高、作業量などの増減やその他外的要因による影響によって増減する実績値の評価をとらえるため「売上金額当りの二酸化炭素排出量」を昨年度試算し、今年度から新たな環境経営目標値としました。売上高に対するコストを、今まで気づかなかった別角度から分析できるようになりました。経営にとってもいい指標となります。

総排水量の削減は、節水量の限界に達したと思われまます。洗車時間の統計は継続して取っていますが、本社・福岡支店の1台1回当たりの洗車時間は、これまでの統計によるとほぼ13分となっています。今後の統計で1台1回の洗車時間を13分として扱うことも考えます。南支店の洗車場（雨水利用の洗車）利用を進めてまいります。これからは、水の循環利用による削減やその他手法・運用の提案や実践に進めてまいります。

電気使用量の削減は、限界に達したと思われまます。南支店の事務所照明のLED化を行いました。が、全社としてみると影響は少なかったようにみえます。灯油の使用量が減が、電気使用量の増になっています。太陽光発電や蓄電池、倉庫内照明のLED化などもあります。今まで以上に電気を使用しない工夫を探して進めます。

内部監査について、7回目を実施しました。昨年度と同様に月次のチェックで使用しています。「活動手順書兼拠点用内部監査チェックシート」の内部監査チェックシートを使用して福岡支店と南支店相互に実施しました。監査は両拠点ともスムーズに進みました。改善すべき指摘事項については、速やかに改善するように指示がありました。E A-21 の監査においては、監査内容・項目を整えていくとともに、監査人の教育、レベルアップを目指します。

今年度は、緊急事態の対応訓練における「緊急事態の訓練（防火訓練等）」が実施できませんでした。次年度、早々に実施します。

エコ・地域活動項目を継続し新たに実施できる地域活動項目を模索する目標について、今年度のグリーンカーテンの育成は、ほぼ上手く出来たと評価しています。以前に開催した小学生を対象とした「トラックで運ぶ」というような地域密着したものを開催できるよう考えてまいります。

■ 今後の取組内容

今年度は、昨年度（2023年度）を目標基準年度とした3カ年環境経営目標値を設定した初年度にあたります。

車両の減少などで燃費向上目標の車種構成を変更し、新たな基準値としました。本社・福岡支店の軽油車全車種について目標未達となりました。燃費が向上しているのは、南支店の冷凍冷蔵車のみです。本社・福岡支店の中小型車及びコンビニ車の燃費は、大きく悪化しています。原因が不適切な運転だけではなく、他に原因があると思われます。車両の架装や走行コースの変化によるもの（コンビニ車は影響が大きい）など、調査が必要です。南支店の中小型車も同様に考えられます。次年度は、削減目標値を今年度と同じ目標値とし原因を追及します。また、目標値を見直す必要があれば検討します。

燃費向上のためのドライバーへの指導やキャンペーンを継続し、目標達成を出来るようドライバーへの意識付けも行うよう努めます。

今年度より新たに追加した「売上金額当りの二酸化炭素排出量」について、南支店が目標未達となりました。南支店は、取引先の減少・統合が進み、基準年度（2023年度）から取引先の形態が変わり、運送形態も変化しました。この影響が今年度にてている可能性があるため、次年度の削減目標値は今年度と同じ目標値とし変化をみます。また、目標値を見直す必要があれば検討します。

南支店の洗車場の利用は、洗車ルールの周知を行い雨水による洗車が出来るようにします。利用開始後は福岡支店と同様に洗車記録を取り、総排水量の削減に役立てます。

総排水量削減と電気使用量削減について、削減目標値が限界に達しました。次年度以降の削減目標値は、基準年度（2023年度）とし、これ以上使用しないをスローガンに「節水」や「節電」だけでなく色々な手法や運用を模索してまいります。

産業廃棄物排出量削減について、お取引先様のご協力やエコロジー活動へのご理解を得られるよう努力します。また、一般廃棄物排出量削減については、事務所から排出する紙類を分別（コピー用紙・雑紙・シュレッダーくず・燃えるゴミ）、引越の資材ゴミ、梱包材や事務所移転で排出されるゴミの紙類を分別する運用ルールを決め、実施しています。

本社・福岡支店の引越資材使用量の統計は継続しています。引越資材の使用量を削減目標に設定出来るよう検討します。プラスチックダンボールの利用向上の策定と、中古ダンボールのリサイクル率を上げるよう使用済みダンボールの分別整理の細分化を実施します。

南支店のグリーンカーテンは、大きく育成・長く存続するように植える植物の種類を検討し、植え付けから育成の手順・手間を惜しまないようにします。

地域活動項目として、色々な情報が発信できるよう該当する会合や依頼を探し、協力できるように情報を収集し活用します。

内部監査について、今年度実施した内部監査の内容を整理し、現業業務の内部監査の充実とEA-21の監査項目・監査内容を整えて、更に充実した内部監査が実施できるよう進めてまいります。グリーン購入の推奨や当社の環境経営を一般の方にアピールするための小冊子の改訂も進めてまいります。

EA-21の十分な運用ができるよう、今後も環境経営方針に基づき、当社の事業活動のあらゆる分野で、環境に配慮した行動に努めていく所存です。

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

■ 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

社内でのチェックリストを基に許可証・契約書・管理票・マニュアル・記録データ・その他帳票類等を点検、順守状況を確認したところ環境関連法規、事業に係わる法規いずれも遵守していることを確認しました。

《当社の関連する主な法規制》

主な適用法規	当社の対応	遵守状況
廃棄物処理法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 廃棄物の削減 ・ 廃棄物の適正処置の確保 ・ 産業廃棄物保管基準遵守 ・ 産業廃棄物処理委託基準の遵守 ・ 産業廃棄物管理票の管理義務 ・ 産業廃棄物収集運搬業者 	遵守確認済
水質汚濁防止法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 排水への油分混入の防止 	遵守確認済
自動車リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> ・ リサイクル費用の預託 ・ 使用済み自動車を引取業者へ引き渡す 	遵守確認済
消防法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消防設備の維持管理 	遵守確認済
貨物自動車運送事業法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業用トラック使用の為の遵守 	遵守確認済
道路運送車両法 道路交通法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所有車両の法定点検、日常管理 ・ 法定速度遵守 	遵守確認済
倉庫業法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 営業用倉庫を営む為の遵守 	遵守確認済

■ 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

当社は関連法規制の遵守状況確認を毎年1回実施しており、その結果、違反・訴訟及び地域住民等からのクレームはありませんでした。又、今後も環境関連法規と社会的要求事項を進取し適時改善を行い更なる環境保全活動の制度の向上を図ってまいります。

9. 代表者による全体の評価と見直し・指示の結果

2023年度基準値で目標値を設定した2024年度から2026年度の3カ年目標の初年度となりました。

燃費向上目標において、南支店の中小型車及び冷凍冷蔵車以外は未達となりました。南支店の中小型車の数値も未達とほぼ同じととらえています。車両構成を実情に合わせた目標値での結果でした。このまま目標値を向上しても、何も手を打たなければ目標未達となるでしょう。拠点長及び配車担当者からの適切な運転指導の実施は継続徹底を指示しますが、他に原因が無いか追求することが大事です。原因がわからないと手が打てません。次年度は、目標値を今年度と変えずに評価する。常温輸送の大型車の目標値は高いように感じます。南支店の冷凍冷蔵車は安定した燃費を実践しており、デジタコの評価も高く、これを見習って欲しい。毎年言い続けていますが、燃料価格の高騰が続く中、車両の燃費は会社の利益に直接影響することを全従業員に認識してほしい。また、事故ゼロを目指し事故にかかる経費を利益に変えるような意識付けを徹底してほしい。

今年度から新たに審査人からのご提案により「売上金額当りの二酸化炭素排出量」削減の目標を追加しました。昨年度試算したところ、売上高の中でガソリン・軽油を使用しない比率が大まかに把握でき、コスト比率にかなっていると判断できました。これまで、燃料消費量や電気使用量は、売上高の増減、お客様のご協力や車両台数の増減等受注や売上高、作業量などの増減やその他外的要因の影響の評価をとらえることができませんでした。この削減目標値は大まかにそれを捉えることができますが、燃料や電気を使用しない売上高の比率が大きく影響します。南支店はおお客様の構成が変化し、その比率昨年度より変わってきました。南支店が目標未達となっているのはそれが原因と考えます。次年度の削減目標値は今年度と同じ目標値とし再評価するように指示します。

「電気使用量の削減」について、このままの活動手順では限界となりました。次年度以降の削減目標値は基準年度を同じ目標値とし、これ以上使用しないように活動します。目標値を維持しながら何らかの削減方法を考えなければなりません。

「総排水量の削減」について、水を節約するだけの活動手順では削減の限界になりました。次年度以降の削減目標値は基準年度を同じ目標値とし、これ以上使用しないように活動します。目標値を維持し、水の再利用を考えるか新たな手法を探るようにします。南支店の雨水利用は、早急に使用できるよう駐車場の整備と運用ルールの周知をするように指示しました。

「産業廃棄物排出量の削減」・「一般廃棄物排出量の削減」は、従業員の皆様の創意工夫やお客様・荷主様のご協力の成果を高く評価します。一時的な増加があるものの全体は削減傾向にあります。従業員皆さんの意識の向上に繋げてまいります。お客様と環境経営についての取り組みを相互に協力できるような関係に築いていきたいと考えます。また、南支店の地域活動項目として、幅広く地域密着として開催できるように活動に努めます。

内部監査は7回目となりました。監査項目・実施内容を見直し、充実するよう期待しています。PDCAの徹底を行い、拠点長や管理者が率先して問題点の是正や予防処置を実施し、業務改善を進めることが教育実践となります。

引き続きの課題で、企業の危機管理や緊急事態に備えて平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための事業継続計画（BCP）の策定を進めます。

環境経営の中で経営の課題とチャンスをつかみ、当社自ら販売・提供するサービスの向上に勤め、地域活動への参加・協力を推し進めてまいります。

<前回審査における改善事項に対する取組状況>

・二酸化炭素排出量を管理するため、原単位目標を追加すると共に、短期及び中期の環境管理目標を設定する。→「売上金額当りの二酸化炭素排出量」削減の目標を追加し、3カ年目標を設定しました。

以上